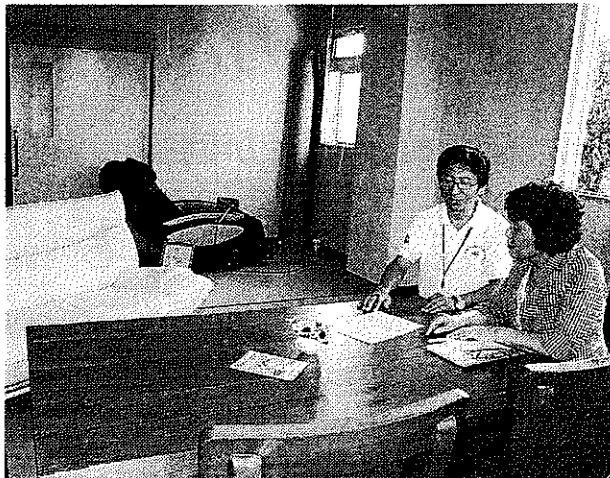


保健管理センターで、学生がくつろげるようにつくられた「リラクゼーションルーム」



佐大フケツチ

大学にも保健室がある。学生の心とからだの健康を守り、増進するために一九七〇年に設置された「保健管理センター」がそれである。小学校の保健室と違って、ここには三人のお医者さんと看護師さんがいて、授業中のけがや気分が悪くなった時など駆け込める。また、定期的健康診断も行われる。

新学期。多くの学生が健診にやってくる。鍋島キャンパスの学生とも

「五月病」。初めて親元を離れ、生活のすべてを自分

の心がけがやがたかかると病は

な予防接種も行われる。所長

で精神科医の佐藤武教授は心

の相談も受ける。留学生の相

談は中国語、英語、韓国語な

どで当たり、年間延べ八百人

の学生が訪れる。

保健管理センター 心と体の健康守る

また仲良くなれない。そのうちホームシックにかかる。この学生の多くはGWに帰省し、授業やサークルなどで交流する機会が増えてくる五月下旬には元気になる。

佐藤先生によると、人は「誰か」とつながりたい」という欲求があるが、今の学生たちは他人と出会う機会が少ない。私たちのころは、下宿のトイレや台所は共用、電話は大家さんが取り次いでくれ、親からの送金は郵便屋さんが手渡ししてくれる現金書留だった。

今は、台所も風呂も完備されている部屋に住み、ATMでお金を受け取り、携帯メールで連絡を取り合い、愛の言葉を交わす。人との間合いの取り方や感情の発露が下手で「ゼロかー」の関係だそうで、多様な付き合い方ができないという。

大学では今年から、授業とは関係なく先生一人に数人の一年生でグループをつくり、交流や面談をする「チューター制度」を取り入れて学生のケアに当たっている。

(佐賀大学理事・北島悦子)
※次回は十月十三日の予定です。